

東郷小路

道しるべものがたり



▲東郷小路の石碑▼

幾多の変遷の末、今は現在地にて静かに東郷記念館への道案内を行っています。

《道しるべ》が語る苦難の歴史に思いを馳せてみてください。

伊東自然歴史案内人会

■天城診療所の肝臓先生こと佐藤清一先生の俳句の恩師、山本安三郎（六丁子）先生（小児科医）が自費を投じて建てられたもので、字は親友〇〇琴也の書、町役場の所在地で別荘に通じる道の入口にありました。以来誰云うともなくその通りを“東郷小路”と云って、町の人たちに親しまれてきました。終戦を迎えた昭和二十年八月石碑も荒れるままであったが、英軍ロバート中將が川奈ホテルの接收に役場に来られるという前日の夜、肝臓先生は町長（当時山田省三氏）に懇請し自宅の庭に安置されました。以来 30 年近くそこに眠り続けていたましたが、昭和四十八年東郷別荘の管理人田辺とみさんの知るところになり元市役所東南角地に移築再建され、平成七年市役所移転後現在地に再度移設されました。（『続肝臓先生』（佐藤十雨著）、『東郷記念館―東郷別荘の思い出―』（田辺とみ）より抜粋。

―再建移築の喜びの歌（昭和四十八年）―

永き世に忘れられし道しるべ 今日あたたかき光をぞみる 田辺とみ
今日の目を待ちてねむりし石ぶみに 東郷小路なつかしみ読む 一女（石黒）経子

■山本安三郎医師は昭和八年八月元帥のお孫さんの百々子様の病気を別荘まで往診・診察しています。山本六丁子の句碑が松月院にあり、そばには佐藤十雨の案内碑に自作の句が彫られています。

■天城診療所跡には肝臓先生ご夫妻顕彰碑（坂口安吾の詩）があります。

（最近中央開館【図書館】入口に移築されました）